

**インドネシア共和国におけるセミナー・マッチング・イベントご参加企業 PR 文書**

(ICETT 管理番号: )

作成日:

2017年6月26日

**社名 : 日本アルシー株式会社**

代表者名 : 代表取締役 藤野 清治

事業分野・内容 : 水処理用薬品、プラントの製造販売。水処理プラント受託運転管理、環境分析 他。

得意な分野 : 1. 廃液の微生物による分解、処理、  
2. 生物処理の余剰汚泥の削減 3. 高濃度廃液の安価な処理  
4. 排水処理にかかるランニングコストの低減。

**PR したい技術・製品・サービス 1**

**【名称】好気嫌気循環型高機能微生物処理装置『バイオアルシー』**

**【特徴・性能・適用分野】**

- 嫌気・好気・沈殿一体型のシステムにより、省スペースで省エネルギーを実現。
- 優れた処理能力で余剰汚泥の大幅削減が可能
  - BOD 除去能力は従来の活性汚泥処理に比べ3～10倍アップ
  - 微生物による処理された水は河川放流できるレベルの水質を安定的に確保できるだけでなく、放流水の再利用も実現。
- 高濃度廃液を処理可能。嫌気・好気処理を交互に繰り返し、濃厚な廃液(水溶性切削油、離型剤等)を処理

**【導入するメリット/アピール・ポイント】**

- 運転管理費が安価: 余剰汚泥の引抜きと脱水が不要、汚泥の処分費不要、薬品が不要、電気の使用量が少ない  
ポンプ台数が少ない。運転管理者の常駐不要で人件費削減可能。
- 高度な運転技能・知識・訓練不要: 無人自動運転設備を目標とし、必要運転操作機器の削減、運転操作の  
全自動プログラム化。インターネットを利用した遠隔監視システム構築
- 特殊な薬品が不要: 活性炭や凝集沈降剤などの後段の高度処理がなくても放流水質が確保できる。

今後、インドネシア共和国において興味のある事業の形態(複数可)

- A: 製品輸出・販売   
  B: 現地生産(自社工場/相手先工場/他)   
  C: 技術面等での提携先探索(含 共同研究)  
 D: 情報源(現地コーディネータ/ビジネス・アドバイザー)探索   
  E: その他(要記述)

具体的な事業形態: 1. 設備のリースと設備の運転・保守管理、 2. 装置の販売、設置、組立、試運転

相手先としてイメージする企業・団体の業種・業態等 : 公共上下水処理場、自動車製造関連工場、食品製造工場など

**【導入実績】(用途)工場廃水処理**

**【国内】**本田技研工業、日産自動車、積水ハウス、コマツ、協和製作所、  
東京フード、アクリフーズ、コスモフーズ、正和製菓、愛知機械工業  
ニプロファーマ、エフテック、太陽化学、月島食品工業、NTN、ヤマハモーター

**【海外】DAISIN Korat**

Nissan Motor (Thailand)  
強冠股分企業有限公司(台湾)  
INDFOOD TSUKISIMA SUKSES  
MAKMUR CO., LTD. (Indonesia)



冷凍食品工場 A 社



自動車部品工場 E 社



**主な保有特許**

- ・微生物反応槽および排水処理方法 (PCT/JP2012/55806)
- ・微生物反応槽 (PCT/JP2012/55809)
- ・活性汚泥処理方法および該方法を用いる既存排水処理設備の改修方法 (PCT/JP2012/55810)
- ・活性汚泥処理方法および該方法を用いる既存廃水処理設備の改修方法 (PCT/JP2012/55812)

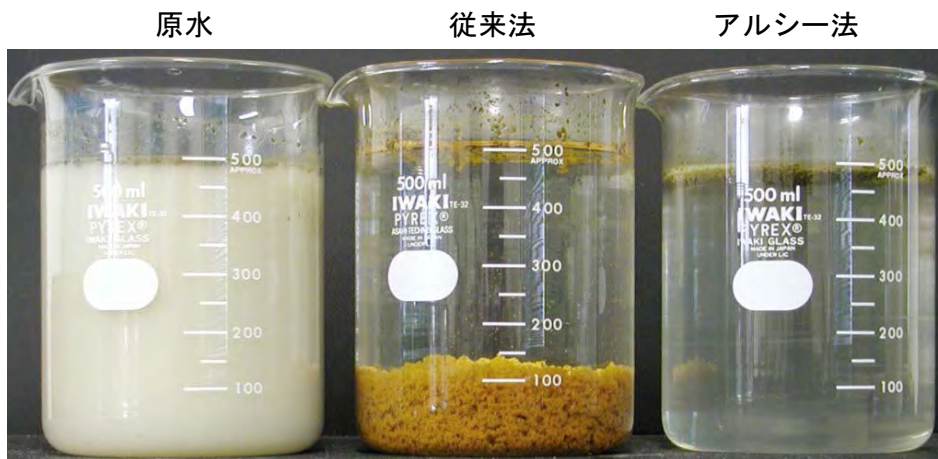
## 【名称】有機高分子凝集剤『アルシーフロック N100 シリーズ』

## 【特徴・性能・適用分野】

産業廃液処理において、生物処理を適正に安定した運転を行う為には、前処理が重要であり、薬品による凝集反応処理を行わなければなりません。その前処理薬品を弊社で製造、販売しています。アルシーフロック N100 シリーズは、従来の無機の凝集剤(PAC や硫酸バンド、ポリ鉄等)の通常の凝集剤と異なり、薬品(凝集剤)由来の発生活泥量を大幅に削減することが可能で、これまで困難とされた濃厚な廃液の凝集も可能です。又、アルシーフロック N100 シリーズで前処理した処理水は、これまでの無機の凝集剤を使用した場合に比べ、微生物処理しやすくなります。地球に優しく、経済的な処理が実現できます。

## 【導入するメリット/アピールポイント】

1. 自動車部品製造工場から発生する「クーラント廃液」(切削油)の処理について、アルシー法であれば、発生する汚泥量を低減させながら、処理水の n-Hex や COD の低減も可能です。



呼吸活性は、微生物処理性能を示します一般的には、15 以上で生物処理分解性が良いとされます。アルシー法の処理水は 29 と生物処理しやすい水になっています。

	原水	従来法	アルシー法
BOD	15,000mg/L	10,000mg/L	9,000mg/L
COD	7,800mg/L	5,200mg/L	4,800mg/L
		凝集処理後	凝集処理後
塩化第二鉄	3,000ppm	アルシーフロック N110	150ppm
苛性ソーダ	1,000ppm	アルシーフロック 101	25ppm
高分子凝集剤	3ppm		
呼吸活性	5mgO/g-ss・Hr	10mgO/g-ss・Hr	29mgO/g-ss・Hr

2. 圧延油排水 (金属加工メーカー)

a. 従来法 硫酸バンド+消石灰+高分子凝集剤 年間薬品費 1,520,000 円 汚泥処分費 12,880,000 円

トータルコストを73%削減

b. アルシー法 アルシーフロック N110+アルシーフロック 102 年間薬品費 5,210,000 円 汚泥処分費 2,880,000 円

今後、インドネシア共和国において興味のある事業の形態(複数可):

- A: 製品輸出・販売 B: 現地生産(自社工場/相手先工場/他) C: 技術面等での提携先探索(含 共同研究)  
D: 情報源(現地コーディネータ/ビジネス・アドバイザー)探索 E: その他(要記述)

具体的な事業形態: 製品輸出・販売、現地生産、技術面等での提携先探索

相手先としてイメージする企業・団体の業種・業態等: 公共上下水処理場、自動車製造関連工場、食品製造工場など

【導入実績】(用途)工場廃水、廃液の一次処理用凝集剤、脱水用高分子

【国内】トピーファスナー工業、豊田自動織機、本田技研工業、日産自動車、愛知機械工業、積水ハウス、ヤンマー、アイシン化工、デンソー、トリックス、エフテック、豊臣機工、NTN、

【海外】DAISIN Korat NMT Bangkok

その他の自動車関連工場、食品工場他多数

- 主な保有特許
- ・ 油水分離凝集剤および油水分離凝集方法(特許番号 4171648)
  - ・ 凝集剤および凝集方法(特許番号 4033946)
  - ・ 有機凝集剤及び該有機凝集剤を用いる排水処理方法(特許番号 4076605)

その他、自社のインドネシア共和国における事業に関する特記事項

1. 2015年6月にインドフード月島様むけ排水処理プラントを日本から輸出し、2016年4月より運転を開始している。
2. 2016年 JICA より事業委託を受けて、インドネシアの公共下水処理場にバイオアルシーを導入する案件化調査を実施
3. 2016,2017年 JETRO より「バイオアルシーシステム」は、新輸出大国コンソーシアム エキスパート支援(タイ,インドネシア,台湾)を受けている。
4. 2017年 JICA よりインドネシア国生活排水処理インフラ整備へのバイオアルシー導入 普及・実証事業の採択を得た。

企業情報

社名(和): 日本アルシー株式会社

社名(英): JAPAN ALSI CO.,LTD .

ウェブサイト: <http://www.japan-alsi.co.jp/>

所在地 〒510-1312 三重県三重郡菟野町竹成弥八 1270 番地

電話:(059)399-2626

ファクス:(059)396-3446

Mail アドレス: soumu@japan-alsi.co.jp

相手国企業からの直接の問い合わせの可否:

電話: 可 (問合せ言語 日本語・英語・インドネシア語・その他(語)) ・ 不可

Mail: 可 (問合せ言語 日本語・英語・インドネシア語・その他(語)) ・ 不可

窓口(部署)

総務部

(役職)

取締役

(氏名)

藤野 芳鹿

電話:(059)399-2626

ファクス:(059)396-3446

メール:soumu@japan-alsi.co.jp

これまでのインドネシアでの事業活動(複数可): (開始時期:2015年1月)

- A: 製品輸出・販売    B: 現地生産(自社工場/相手先工場/他)    C: 技術面等での提携先探索(含 共同研究)  
D: 情報源(現地コーディネータ/ビジネス・アドバイザー)探索    E: その他(要記述)    F: 無し

その他記述欄:

(ICETT 使用欄)